

吹上沢

甲子温泉前を通り、本谷の仮橋を渡って白水沢へ。3mと10mの2つの滝を越えると、すぐ吹上沢が右から合流している。出合は狭く、薄暗い感じの沢である。

5分程でF1、ナメ滝である。高さが6m位、長さが20m位はあろうか。そのあとも約5分間隔で小さな滝が続く。F3のトイ

1983年7月24日
L

かったことで、縞石沢の下降を含めて4時間で終了した。
6:20入渓。しばらく沢ぞいの道を歩く。水量も少ない。ずっと平凡な沢歩きが続く。途中でちょっと変わったことといえば、狸を見たことである。

7:20 10mと5mの滝が続き、シャワークライミングを楽しむ。7:43大岩から垂直に流れる8mの滝がある。足場も悪く、岩ももろいので、慎重に捲く。

8:15エンマ沢の遡行を終え、尾根に出て一休みする。
(記・

[タイム] 出合(6:20)→遡行終了(8:15)

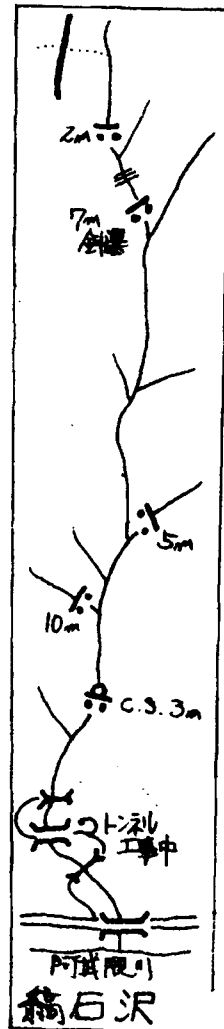
縞石沢(下降)

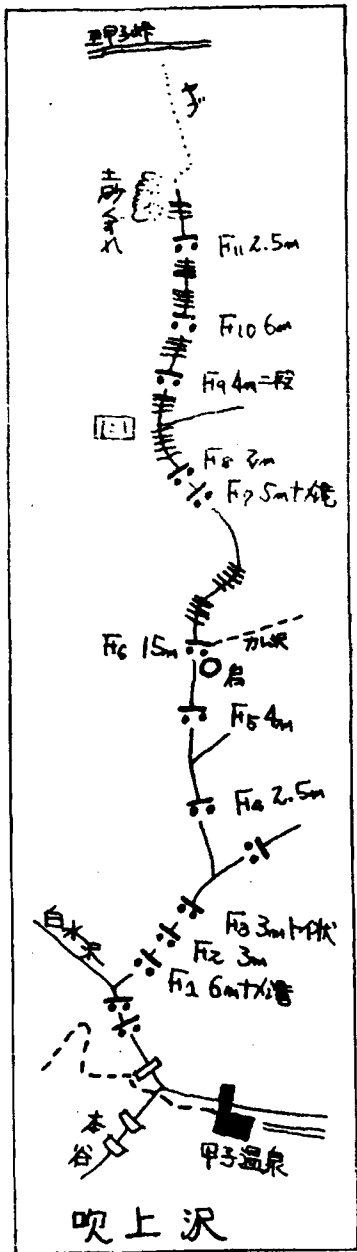
1983年7月24日
L

8:35下降開始。7mの斜瀑を過ぎた所で縞石沢の本流に出る。この沢は非常に平凡な沢である。滝など1つもないままに終わってしまった。尖戸さんが途中で大きなサルノコシカケを収穫する。下降終了8:45。

(記・

[タイム] 下降開始(8:35)→縞石沢本流(9:00)→縞石橋(9:45)





南沢左俣

1983年7月24日

L

南沢の二俣までの記録は既に報告済みである(本誌No. 6参照)ので、それ以後の部分についてのみ報告する。

連続する滝の殆どを直登で突破して8:30二俣到着。この先何が

状の滝を越えると、分岐になる。水量は左俣が多い。
 左俣を登って20分程で4 mの直瀑。小さなホールド、スタンスをひろって、ようやく直登。ここからすぐ15 m程の滝に出る。ホールド、スタンスは充分なように思えるが、かなりの水が流れていて、潜水クライミングになりそう。落ち口をトラバースして、右側を強引に登るが、ここも水の流れが激しくて苦勞する。玲子さんもトライしたいというので、ザイルをたらず。登りついた所はカレ沢が合流したテラス状の所で、この上は難なく登れる。

この滝を境に沢は、ナメが連続して出てくる。標高1100m位の所でひと息入れてまた登る。まもなく、また二俣。水量はほぼ同じ。地図からすると左側が本流と思われるので、こちらを選ぶ。

吾妻に大滝沢というナメのきれいな沢があるが、そのミニ版のような感じの沢登りを楽しんでいると、やがて水も濁れ、ブッシュがかぶさってくる。

右側に小さな尾根があったので、そこに取り付くが、まもなく尾根筋は消え、平らな笹やぶになってしまう。コンパスと笹の根曲がりをたよりにやぶをこぐこと1時間。ちょうど10時に道に出る。

(記・)

[タイム] 甲子温泉(6:25)→白水沢
 出合(6:35)→沢終了(9:00)→林道(10:00)

